



訪問当日の記念撮影の様子 (著者撮影)

越・台・日の仏教者たちの支援活動を通じた交流

エリカ・バフェツリ (マンチェスター大学)・高橋 典史 (東洋大学)

2021年12月下旬のある日、私たちは埼玉県本庄市にあるベトナム仏教寺院「大恩寺」へと向かった。車数台に200キロ以上のお米などの支援物資を積み込み、東京から大恩寺へと運搬する仏教者たちの一行に同行させてもらったのである。

日本のベトナム仏教寺院

大恩寺は、日本で暮らすベトナム仏教徒たちの信仰活動だけでなく、ベトナム人をはじめとする在日外国人への支援活動の拠点となり、日本で困難に直面して困窮する技能実習生や留学生らの文字通りの「駆け込み寺」としての役割を担ってきた。そして、コロナ禍のパンデミックにより、いっそう過酷な状況に置かれるようになった人々への支援を幅広く行ってきた。

そうした支援活動の中心にいるのが

ベトナム出身の尼僧ティック・タム・チー (釈心智) 氏 (一般社団法人在日ベトナム仏教信者会 代表) だ。ティック・タム・チー氏のこれまでの活動に関しては、本誌「移住者と宗教」のコーナーでも紹介してきただけでなく、最近では新聞やテレビなどのマスメディアでもしばしば取り上げられてきたため、ご存じの読者も多いことだろう。

ティック・タム・チー氏は、留学のために来日して大学・大学院で仏教を学んでいたところ、2011年3月に東日本大震災が発生した。その際に被災地のベトナム人たちを支援したことがきっかけとなり、その後も在日ベトナム人たちに献身的に支援するようになった。彼女が中心となって結成した在日ベトナム仏教信者会では、コロナ禍が起こると、大恩寺やその他の施設において、仕事や住む場所を失った技能実習生や留学生を保護したり、全国各地に暮ら

すベトナム人たちへ食料を発送したり、生活相談に対応するなどしてきた。こうした活動は、ベトナム大使館などの協力のもとで取り組まれてきたという。そして、日本という異邦の地で亡くなった人々の供養を行ってきた。これらの活動の情報発信には Facebook などの SNS が活用されており、様々な相談事への対応にも SNS によるネットワークが重要な役割を果たしている。

本コラムで紹介したいのは、大恩寺を拠点とした在日外国人への支援活動が、国籍をこえた仏教者たちのネットワークへと展開している点である。

日・台の仏教者たち

私たちが今回の支援物資の運搬に同行できたのは、浄土宗僧侶の吉水岳彦氏 (東京台東区・光照院住職) の計らいによるものであった。吉水氏は、

東京の山谷エリアを拠点にして路上生活者などの支援を行う社会慈善委員会「ひとさじの会」の中心的な役割を担ってきた人物である。これまで、私たちもその支援活動に参加させていただく機会があった。コロナ禍以降、大勢のボランティアたちによる活動は自粛を余儀なくされるようになったものの、それ以前のひとさじの会の活動には、多くの在日ベトナム人たちも参加しており、越・日の仏教徒たちによる協働が行われてきた (そうした取り組みについては、吉水氏とティック・タム・チー氏に本誌188号でご紹介いただいた)。コロナ禍のパンデミックの発生以降、ひとさじの会では、在日ベトナム仏教信者会に向けて食料の寄付などの支援を行ってきた。

さて、今回、大恩寺へ運搬した食料は、台湾の仏教団体である臨済宗佛光山の東京佛光山寺が提供したものである。第二次世界大戦後に中国大陸から台湾へと渡った星雲大師によって創設された佛光山は、現在の台湾を代表する仏教団体の1つである。現代の台湾仏教は「人間 (じんかん) 仏教」という思想 (出家主義よりも僧侶の世間との交わりを重視する思想) の強い影響を受けているため、慈善活動、教育事業、文化活動に積極的に取り組むことが特徴的であり、佛光山はその代表的存在である。

佛光山は日本では群馬、東京、大阪、山梨といった地域に寺院を有しており、台湾出身者をはじめとする華僑華人たちの信者たちが数多くいる (なお、佛光山とその日本での活動については本誌189号でも取り上げた)。佛光山には国際 NGO 国際佛光会という組織があり、社会活動を世界各地で展開してきた。さらに、東日本大震災における被災地支援の活動が契機となり、日本国内においても NPO 法人国際ブリアーを設立して様々な活動を行ってきた (主たる事務所は東京佛光山寺に所在)。

そして、コロナ禍においても、国際ブリアーはマスクの自治体への寄付などの慈善活動を進めている。

吉水氏は、以前より社会活動や研究活動を通じて台湾の仏教団体と交流があり、その縁により今回の大恩寺への食料支援のコラボレーションが実現したのである。

支援が紡ぐ国籍を越えた 仏教者たちの縁

ここで、本コラム冒頭の大恩寺訪問に話を戻そう。吉水氏ら日本の浄土宗僧侶たち、台湾仏教の佛光山の僧侶 (尼僧) たちとその信者のボランティアたち、そして見学者である私たち一行は、東京都板橋区内の東京佛光山寺を出発して、一路、埼玉県北部の大恩寺へと向かった。

大恩寺は自然豊かな田畑が広がる丘陵地帯にある。本堂の正面入口からは北関東の広大な平野と雄大な赤城山などの山々を望むことができる。現地に到着してみると、昨年 (2020年) 秋に筆者の1人の高橋が訪問した際にはまだなかったと記憶している「大恩寺 浄農園」が、寺院の敷地の麓に設けられていた。近所の農家の協力も受けつつ、寺院で生活しているベトナム人らがそこで野菜を栽培している。大恩寺では近隣の人々との交流も活発であり、野菜などの食物の支援もたびたびあるようだ。訪問当日は週末の土曜日だったため、寺院にお参りに来て僧侶たちなどと会話する人々が後を絶たなかった。また、年末ということもあり、多くのベトナム人の若者たちが、正月を祝う料理や飾りつけを熱心に準備していた。日本の一般的な地域の寺院のイメージとはだいぶ異なり、活気があるにぎやかな雰囲気だった。大恩寺が信仰の拠り所であり、かつ地域住民も含めた人々の交流の場であることがうかがわれた。

食料支援の物資の積荷をおろし、参

加者一同で記念撮影をしたのちに、寺院の本堂で越・台・日の僧侶たちによる読経が営まれた。それぞれの言語による般若心経の読経や「南無阿弥陀仏」の念仏が唱えられる光景からは、同じ仏教を信仰する人々のあいだに紡がれる縁が感じられた。その後用意いただいた昼食は、仏教の戒律に則ったベトナムの精進料理であった。

憲法上、政教分離原則が厳格に定められ、宗教に対するネガティブなイメージや警戒感が強い現代の日本社会において、伝統宗教である仏教ですら多くの人々にとっては縁遠い存在となっている。他方、ベトナムや台湾などのアジア諸地域においては、仏教はより身近な存在であり、日々の僧侶たちとの交流も活発である。そして、福祉などの社会活動における宗教者や宗教団体のプレゼンスも大きい。さらに注目すべきは、今回参加したベトナムと台湾出身の僧侶たちのほとんどが尼僧、すなわち女性たちであった点である。

このようなルーツが異なる仏教団体のあいだの交流・協働が、コロナ禍のパンデミックのさなかで展開したことも興味深い。日本におけるベトナム仏教徒や台湾仏教徒は数としてはマイノリティであることは言うまでもないが、彼女ら/彼らから学ぶことは数多くあるだろう。

【参考文献】

釈心智・吉水岳彦「路上生活者支縁における在日ベトナム仏教信者との協働について」『M ネット』188号 (2016年10月号)
高橋典史「コロナ禍における在日ベトナム人と宗教—オンラインセミナー報告」『M ネット』213号 (2020年12月号)
村島健司「台湾仏教の寺院として、中国語の寺院として—臨済宗大阪仏光山寺」『M ネット』189号 (2016年12月号)

移民・難民講座（移住連講師派遣）のご案内

移住連では、移民・難民の状況を多くの方に知っていただきたく、学校、企業、団体などへの講師派遣を行っています。

講演テーマ（例）

- ・ 日本に暮らす移民（概要）
- ・ 移民女性（DV、家族関係、複合差別、母子家庭）
- ・ 移住連の活動、移民の権利と市民社会の活動
- ・ 外国につながる子ども・若者
- ・ 移住労働者（移住労働者の権利、運動の歴史）
- ・ 移民にかんする医療・福祉・社会保障
- ・ 技能実習制度・技能実習生
- ・ 難民、庇護申請者、収容問題
- ・ 人種差別・民族差別・ヘイトスピーチ
- ・ 入国管理・在留管理体制、非正規滞在者



講師派遣の詳細、ご相談は、ホームページまたは、事務局までご連絡ください。

SMJ 特定非営利活動法人
移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）

〒110-0005 東京都台東区上野 1-12-6 3F
 Tel 03-3837-2316 Fax 03-3837-2317
 Email: smj@migrants.jp
<http://migrants.jp>



外国人の医療・福祉・社会保障
 相談ハンドブック



外国人の医療・福祉・社会保障 相談ハンドブック

特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）編

日本で生活している外国人による医療・福祉・社会保障の利用を支援するためのハンドブック。法律家だけでなく、医療従事者、福祉施設職員、日本語教室や国際交流協会、自治体職員、NPO・NGO など、外国人の生活を支援するすべての人のための必携書。



明石書店 / B6版 / 362頁
 定価 2500円＋税

Mネット 220号 (2022年2月発行)

発行元 特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク

Migrants Network

移住者と連帯する全国ネットワーク・情報誌

220号
 2022.2

エムネット
 Mnet

移住連が、東京弁護士会人権賞を受賞しました!

(P38 に関連記事)

特集1 省庁交渉 2021

特集2 移民女性の妊娠・出産

写真提供：シスター レティラン